



バッハの森通信

第 168 号
2026年
8月8日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9

<http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699

e-mail: info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

バッハの森の活動 継続と変化

バッハの森理事長 深谷 律雄

夏本番を迎え蝉の声を耳にする今日このごろですが、皆様いかにお過ごしでしょうか。

バッハの森は、会員の皆様の御努力・御協力によって様々な活動を続けております。相変わらず手探りでありますが、少しずつ新しい方向性を探っているところです。簡単にそれらを紹介いたします。

まず、クワイヤに新しい指導者を迎えました。バリトン歌手の小池優介さんです。小池さんはドイツリートを御専門とし、オペラでも活躍される傍ら、古い音楽にも御関心を持たれ、グレゴリオ聖歌にもお詳しいという、バッハの森にはうってつけの方です。また、バッハの森の活動の基盤となっている思想をよく理解して下さい、音楽活動の具体的な進め方について、私どもと一緒に考えてくださっています。大変得難い指導者を得た幸運を喜んでいるところです。

2つめの変化は、バッハの森の「広報活動」を充実させようという試みです。バッハの森はその活動を一般の方々に知らせるためのホームページやSNSなどを少しずつ作成してきましたが、クワイヤやハンドベルが奏楽堂の外に出て、その演奏を聴いていただける機会を積極的に増やしていこうとしています。試みの具体的な項目が確定すれば、皆様にお知らせできると思います。

* * *

たびたび申し上げるように、バッハの森の活動は様々な面において、未だ脆弱です。会員の皆様におかれましては、バッハの森の活動を見守り、あるいは支え、御興味があればぜひ御参加いただいて、ともに音楽を学び奏でる喜びを分かち合ってくださいませよう、心よりお願い申し上げます。



【小池 優介さん プロフィール】

東京藝術大学音楽学部声楽科を卒業し、同声会賞・アカンサス音楽賞を受賞。同大学大学院声楽専攻を首席で修了し、大学院アカンサス音楽賞を受賞。2022年日本音楽コンクール歌曲部門で第2位および聴衆賞を受賞。以来、字幕付きのドイツリートの演奏会を精力的に行っている。宗教音楽やバロック時代の作品の演奏にも定評があり、2025年国際古楽コンクール山梨で第3位を受賞。バスソリストとして多くの演奏会に出演するほか、バッハ・コレギウム・ジャパン声楽メンバーとして国内外の公演に参加している。2023年より妻・有岡奈保と共に「有岡音楽教室新御徒町」を主宰。声楽・アンサンブルのレッスンをを行うなど、音楽教育にも力を注いでいる。

オルガン音楽研究会 ～ 報告と展望 ～

宮本 とも子

J. S. バッハのコラール作品の背景や、歌詞と言葉、そして演奏表現との関係に関心を持っていた私は、2009年、石田友雄先生に『クラヴィア・ユーブング第3巻』のオルガン作品についてご指導いただきたいとお願いしました。先生は、Jan Ernst氏から紹介を受けたAlbert Clement教授の研究書をテキストに学ぶことを提案してくださり、隔週金曜日に全曲を対象とした講義が2016年まで続きました。私は講義の中で演奏を担当させていただき、作品の神学的・音楽的背景を実践とともに学ぶことができました。

その後も、国内外の最新研究を取り入れながら、J. S. バッハのオルガン・コラール作品を継続して学び、教会暦に沿った「レクチャーと演奏」という形で発表を重ねてきました。石田先生はこの活動をご逝去される直前まで精力的に継続してくださいました。

2025年春は、全く予期せずして、先生を偲ぶ「お別れ会」の準備から始まりました。

ご遺族から、内輪の会にはしたいけれど、バッハの森記念奏楽堂から音楽で見送りたい、というご希望をいただき、役員や会員のオルガニスト一同が協力してプログラムを作成しました。

お別れ会の後に開かれた役員会では「バッハの森の活動を可能な限り継続する」ことが決定され、「オルガン音楽研究会」も新たに、会員・一般参加者が共に学ぶ「弾き合い会・聴き合い会」と形を変えて行い、各学期末には試演会を開催しています。

また、石田先生が来日を楽しみにされていた海外の音楽家との交流も、予定どおり行うことができました。

冬季は暖房費節約も兼ねてセミナールームのイタリアオルガンを用いた「ウィンター・スペシャル」を開催し、3月のオルガン試演会では来日中だったマインデルト氏によるフレスコバルディのミサ曲交唱、Jan Ernst氏による講評をいただくなど、実りの多い学びの機会となりました。

今年9月からは、前述のAlbert Clement教授が近年発表された論文を読み、演奏と共に実践的に学ぶ新しいクラスを計画しています。クリスマスに向け

ては、『Vom Himmel hoch, da komm ich her』に基づく《カノン変奏曲》の構造や象徴を読み解くことを主要テーマとする予定です。

オルガン演奏に取り組む方はもちろん、バッハ作品の奥深い世界や音楽の「謎解き」に関心をお持ちの皆様にも、ぜひご参加いただければ幸いです。



マインデルト・ツヴァルト氏(左)と
ヤン・エルンスト氏(右)



メモリアルコンサートのためのワークショップ

クワイア

岩淵 倫子

石田友雄先生の逝去から1年余、クワイアでは試行錯誤の日々が続いています。そのような中でも、昨年年6月、12月にはプロの演奏家の皆様と共演したり、今年3月にはドイツからヤン・エルンスト、マインデルト・ツヴァルトの両氏を迎えてワークショップと友雄先生のメモリアルコンサートを催し

たりと、実りある活動を着実に積み重ねることができました。

小集団であることを「よさ」として捉え、「互いの声や全体の響きを聴き合うこと」や「言葉と音楽の結び付きを考えること」、「楽曲の背景や演奏について意見を交流すること」を大切に、仲間と共にバッハの森クワイアらしい学びを実践できたのではないかと思います。

4月からは、バリトン歌手の小池優介氏が、指導者として新たな視点や刺激を与えてくださっています。今後は、共に歌い学ぶ楽しさをより多くの皆様と共有することを目指し、メンバーの増員にも尽力していく所存です。ご関心のある方がいらっしゃいましたら、どうぞお気軽にお声かけください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

ハンドベル・クワイア

別所 直樹

ハンドベル・クワイアでは、「歌うように」を合言葉に、シーズンのテーマとなるコラールやキャロルに取り組んでいます。昨年度はIn dulci jubiloやKomm, Heiliger Geistを演奏しました。

現在のメンバーは多くはありませんが、一音一音を大切にしながら練習を重ね、少人数ならではの密度の高いアンサンブルを目指しています。ベルは一つの手で一つの音を出す打楽器であり、一つ一つの音を有機的に連なるように＝歌うように演奏するのは容易ではありません。ましてや複数人での演奏となると、まさに「息を揃えて」ベルを振ることになります。しかし、ベルで「歌う」ために皆で表現を探り、試行錯誤する事が醍醐味でもあります。

9月からクリスマスに向けて新しい曲に取り組んでいく予定です。練習は土曜日メンバーの都合に合わせて不定期開催です。ご興味のある方はお気軽にご連絡ください。

コラールとカンタータ

金谷 尚美

このコラールとカンタータの会は、私が1989年にバッハの森のハンドベルのメンバーとして参加した時から、ずっと一貫したスタイルで開かれてきまし

た。バッハのカンタータを教会歴に沿ってミサ形式で演奏する、という会です。

友雄先生がカンタータの選曲、解説を全て担ってくださっていましたが、先生が亡くなられてからは、私と長門石さんとで選曲を行い、合唱、ハンドベル、オルガンのメンバーで内容を分担し、なんとか続ける事が出来ました。皆様、ありがとうございました。

今シーズンは、山中さんが過去のコラールとカンタータの会の音源をデジタル化してくださったお陰で、友雄先生の解説を聞けるようになり、それを基に田中さんが友雄先生のお話をわかりやすくまとめ、コラールとカンタータの会で解説してくださいました。おかげさまで、会がとても充実したと思います。山中さん、田中さん、ありがとうございました。

ひとまず今シーズンが終了し、この会を見直す良い機会とも思いますので、皆さんからこの会を続けるべきか、続けるならどういう形で開催するかを話し合い、決めたいと思います。

石田友雄先生訳詞コラール集 編集企画

比留間 恵

1985年のバッハの森創立以来、故石田友雄先生は、聖書学者の視点でコラールとJ. S. バッハのカンタータの研究を続けてこられました。この度、先生が遺された41年間の活動の記録である資料を、有志が少しずつ編纂することになりました。今後、バッハの森に集う多くの人が活用できるように、先生独自の観点で作られた数々の研究資料を体系的に整理し、まとめることを目的としています。

先ず、友雄先生の遺稿を整理し、先生が訳詞されたコラールを、大まかな教会暦ごとの小冊子にまとめることから始めようと思います。まとまりましたら、バッハの森会員以外にもコラールを知っていただく機会も兼ねて、バッハの森の活動の軸である「コラールとカンタータの会」の入門として、「(仮称)コラールを歌う会」を適時開催する予定です。日程等、詳細が決まりましたら追ってお知らせいたします。

横田博子さんを偲んで

バッハの森理事長 深谷 律雄

かねてより病氣療養中だったバッハの森会員横田博子さんは、さる12月23日、薬石効なく逝去しました。謹んで御冥福をお祈り致します。

横田さんは、1985年のバッハの森創設前から石田ご夫妻を支え、ハンドベルクワイヤの中心メンバーでありました。運営面では長きにわたってオルガンや研究会など様々なプログラムに関わり、役員(監事)としてバッハの森の事務面を助けてくださいました。ここで特に記しておくべきことは、不慮の事故で入院した前理事長、石田友雄先生の入院に寄り添い、最期を看取ってくださったことです。また、その後の様々な処理や片付けなどでも中心として働いてくださいました。これら全てが御自身の病をおしてなされたことを思うと、ただひたすら頭が下がる思いです。

私が1986年にバッハの森を訪問したときには、横田さんは当時あったリコーダーアンサンブルのメンバーとしても活動していらっしゃいました。なんどか楽器を持参してアンサンブルに加えて頂いた記憶があります。当時から横田さんは柔らかな微笑みと優しい声で接してくださいました。その微笑みとお声は、最後にバッハの森の事務室でお会いしたときにも(声量はずいぶん小さくなっていましたが)変わらず、その後幾許もなく訃報に接することになるとは、そのときは思いもしませんでした。

会員の皆様それぞれが、横田さんとの(あるいは私よりはるかに豊かな)思い出をお持ちかと存じます。横田さんのバッハの森への多大な貢献に感謝し、銘々が在りし日のお姿を想起する縁になることを願って、ここに若干の紙幅を割く次第です。

事務局より

一昨秋から塚越多恵子さん、戸部慶子さん、故横田博子さんが相次いで引退されました。

お三方の中にはバッハの森設立当初(以前)からの会員の方もおられ、石田友雄・一子先生御夫妻からの信頼も厚く、長年にわたりボランティアで事務、会計の仕事を担当され、バッハの森を支えてくださった方々です。その支えのもとに、わたしたち

は安心して音楽活動をすることができました。改めて、心から感謝申し上げます。

さて、今は友雄先生が担われていた事務、広報などは若手が、会計その他の事務諸々をもう一人が担当しています。少人数体制のため行き届かない点もあることと思いますが、運営へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

役員紹介

2026年度定時理事会・評議員会で役員人事に変更がありました。継続、重任も含め、この場を借りてお名前と直近の就任時期をご紹介します。

代表理事

深谷 律雄(株式会社日立ハイテク社員)

2026年6月(年度末定期評議員会)重任

業務執行理事

宮本(智子)とも子(フェリス女学院大学名誉教授)

2026年6月(年度末定期評議員会)重任

理事

岩渕 倫子(筑西市立協和中学校教諭)

2026年6月 重任

監事

松村 治美(ピアノ講師・日本聖書学研究所会員)

2026年8月 重任

田中 明彦(品質アドバイザー)

2026年6月 新任

評議員

関場 大一郎(筑波大学 講師)

2025年8月 新任

平賀 邦子(ピアニスト)

2025年6月 重任

別所 直樹(株式会社自研センター社員)

2025年6月 重任

名誉理事

この度、ヤン・エルンスト、マインデルト・ツヴァルトの両氏にバッハの森の名誉理事就任をお願いし、快諾いただきましたのでご報告いたします。

名誉理事は当財団の理念と活動にご賛同いただく象徴的な役職であり、法人運営上の業務執行や法的責任をおねがいするものではありません。長年にわたりバッハの森の活動を支え、共に活動してくださっているお二人に感謝の意を示すとともに、バッハの森が国際的な交流の元に活動していることを示すものです。

事業報告 (2025. 4. 1～ 2026. 3. 31)

1. 宗教音楽に関する教育と研究

(1) コンサート

a 一般向け

- ・教会音楽コンサート(6月)
- ・クリスマスコンサート(12月)
- ・オルガンと声楽によるコンサート(3月)
- ・メモリアルコンサート(3月)

b 会員向け

- ・コラールをうたう会(12月)

(2) 公開講座

- | | |
|----------------|----|
| a コラール・カンタータ入門 | 6回 |
| b オルガン試演会 | 3回 |

(3) 研究会

- | | |
|--------------|-----|
| a オルガン音楽研究会 | 31回 |
| b オルガン・クラブ | 9回 |
| c クワイア(混声合唱) | 29回 |
| d ハンドベルクワイア | 5回 |
| e バッハの森リンガーズ | 11回 |

(4) 音楽教室

- | | |
|-----------------------|-----|
| a オルガン又はクラヴィコード | 4回 |
| b チェンバロ教室 | 14回 |
| c ドイツ人講師による特別オルガンレッスン | 1回 |
| 特別声楽レッスン | 1回 |

(5) ワークショップ

- ・イタリアからオルガニストを招き、イタリアオルガンを使った即興演奏のセミナー(4月)
- ・ドイツからオルガニストとカウンターテナーを招き、合唱を中心とするセミナー(3月)

(6) 教育活動の準備

- ・上記(1)～(5)の教育活動と研究活動に必要な資料、楽譜の作成

(7) 図書・楽譜・資料の収集

- ・上記(1)～(5)の教育活動と研究活動に必要な資料、楽譜、図書の収集、整理

(8) 活動報告、その他

- ・年間4回発行・配布する『バッハの森通信』とホームページ、フェイスブックにより情報を公開、活動を報告
- ・バッハの森の写真や演奏会案内、活動の様子などをフェイスブックで発信

2. 収益事業

(1) 貸家の賃貸

(2) 会員による施設(奏楽堂を含む)の利用

- ・宮下氏セミナー(5月)
- ・チェンバロ、ヴァイオリンと歌の演奏会(7月)
- ・富田氏オルガン演奏録音(7月)

3. 法人の維持管理に関する活動

(1) 法人の維持管理

- ・理事会の開催 事業報告、決算報告(6月)
人事(代表理事の退任・選任)(8月)
事業計画、予算(3月)
- ・評議員会の開催
事業報告、決算報告、人事(評議員重任)(6月)
人事(理事・評議員・監事の選任)(8月)

(2) 建物の維持と植栽整備

- ・植栽の手入れ(5、6、7、9、10、11、3月)
- ・高木の剪定(10月)
- ・管理棟整理・清掃

(3) 楽器の維持管理、扱いについて

- ・アーレントオルガンの維持管理(調律3回、ポリムニア)
- ・チェンバロの維持管理
- ・クラヴィコードの維持管理
- ・リードオルガンの維持管理
- ・ハンドベルの維持管理

(4) 建物の安全に関する事項

- ・ガス漏れ点検(12月)

寄付報告 (2025. 4. 1 ～ 2026. 3. 31)

一般寄付

54名と2グループの方から1,214,920円のご寄付をいただきました。

このうち石田家ご遺族様から多大なご寄付をいただきました。

建物維持・修理寄付

2名の方から12,000円のご寄付をいただきました。

土地地上権積立寄付

1名の方から10,000円のご寄付をいただきました。

2025年度会計報告

(2025. 4. 1～ 2026. 3. 31)

(1)収入の部	(単価:円)
基本財産受取利息	3,600
特定資産受取利息	0
受取会費	470,000
事業収益	
コンサート	613,300
公開講座	95,500
研究会	1,381,000
ワークショップ	208,500
音楽教室	202,000
楽器使用料	393,000
収益事業(貸家賃、貸会場)	1,506,400
受取寄付金(一般寄付)	1,214,920
雑収益(施設利用、その他)	91,409
経常収益計	6,179,629
(2)支出の部	
支払報酬(会計事務所、登記代行)	354,808
旅費交通費	149,100
通信運搬費(郵送、電話、ネット関係)	91,389
什器備品費	0
消耗品費	19,806
修繕費(楽器メンテナンス)	115,500
修繕費(植栽)	437,800
印刷製本費(通信、封筒、チラシ)	68,554
光熱水費	562,901
賃借料(地代、機器リース料)	1,150,102
火災保険料	180,720
諸謝金	1,006,384
租税公課(固定資産税、法人税、印紙代)	394,000
雑費(コピー使用料、PCシステム管理費)	448,233
負担金	6,820
経常費用計	4,986,117
当期経常増減額	1,193,512

指定寄付収支

土地地上権積立

〔収入〕		〔支出〕	
前期繰越	594,000		
寄付	10,000	次期繰越	604,000
合計	604,000	合計	604,000

(今後の予定)2026年 地上権更新 1,100,000

建物維持・修理

〔収入〕		〔支出〕	
前期繰越	0		
寄付	12,000	次期繰越	12,000
合計	12,000	合計	12,000

オルガン修理

〔収入〕		〔支出〕	
前期繰越	727,034		
寄付	0	次期繰越	727,034
合計	727,034	合計	727,034

図書整理

〔収入〕		〔支出〕	
寄付	50,000	9回作業	48,600
		次期繰越	1,400
合計	50,000	合計	50,000

会計より

2025年度の会計はおかげ様で満たされ、1,193,512円の黒字になり、これで2026年の年初の土地地上権更新積立金不足分と税金、保険料を支払うことができました。

2026年度の会計は7月以降厳しい状況になると予想されます。今までと同様、皆様のご支援、ご協力を賜りたく、よろしくお願い致します。